

(令和3年11月試験研究業務月報)

試験研究課題：輪作体系における特産豆類栽培での適正な土壌水分管理による安定収量の確保（令和3年度「豆類振興事業豆類助成金」）

研 究

チゼルプラウを用い耕起した小豆ほ場の栽培後調査

京都府内の小豆栽培では、播種期が梅雨明けと重なることによる播種の遅れや生育期間中の秋雨、台風の大雨による湿害で小豆の収量が安定しないという問題があります。

そこで、当センターでは、小豆播種の安定化と生育改善を目指して、チゼルプラウを用いた耕起を実施しました。この作業は、一般のロータリー耕より深耕でき、土塊の間隙が大きくなるため、土壌の表層が速く乾き、過湿による小豆の生育不良の改善が期待できます。一方で、深く爪が入ることで、耕盤層が削られるため、水稻などの後作への影響が懸念されます。そこで、収穫後に、耕盤層の深度や厚さを調べるため土壌の硬度を調べました。今後、このデータや試験区の透水性の調査結果を解析し、後作への影響を評価します。



チゼルプラウを用いた
耕起の様子



小豆収穫後にデジタル式貫入硬度計
を用いた調査の様子